

町内会、求めたつながり

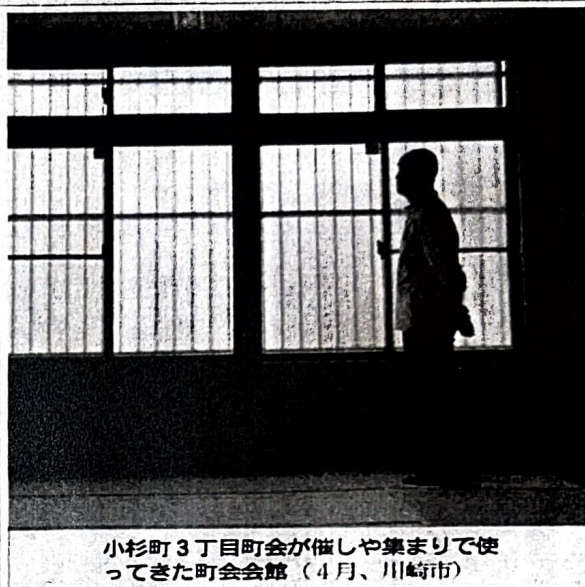
そして続く戦後 1945 → 2025 「街」⑤

GHQ「自由抑圧」、解散迫るも存続

タワーマンションが林立し、「住みたい街」として人気を集める川崎市中原区の武蔵小杉地区。約70年暮らす五十嵐俊男(82)は行き交う人々を目で追いつながらつぶやいた。「住人は増えたが、地域の人間関係は薄れてしまった」

3月末、五十嵐は会長を務める「小杉町3丁目町会」を解散した。複数のタワマンを含む周辺の人口は20年前と比べ3倍に急増。一方でタワマンの住民は町内会には加わらず、加入世帯は減り続けた。役員も高齢化し「これ以上の運営は難しい」と判断した。

津々浦々にある町内会や自治会といった住民組織の源流は諸説ある。放送大学教授の玉野和志によると、広く結成され始めたのは大正、昭和初期ごろ。「都市化により人口移動が増えるなか、街の



小杉町3丁目町会が借しや集まりで使ってきた町会会館(4月、川崎市)



安全を守るためお互いを知る必要が生じた」とみ

1937年に始まった40年の内務省訓令により

隣組は全戸の加入が原則とされた(1946年)

SNS時代、あり方探る

市街地に町内会を整備し、その下に10戸ほどからなる「隣組」を置くこと定めた。全戸の加入が原則とされた。

政府発表を伝達

隣組は「常会」と呼ばれる集まりを定期的に開いた。東京市役所(当時)が41年3月に発行した「隣組常会の様(しおり)」によると、戦死者らへの黙とうや国歌斉唱の後、政府発信の情報を共有する。葉は「腹の底までわかるように説明することが重要」と強調した。

思想の統制や住民の相互監視という狙いがうかがえる一方、「新しい歌の練習、お互いに得意の隠し芸をやることも勧めたい」と親睦の場としての一面もぞく。出征する兵士の見送りや遺族支援、防空訓練の母体ともなり、暮らした深く根ざして行く。

そして迎えた45年の終戦。GHQ(連合国軍総司令部)はまもなく、日本側に隣組の運営について報告を求めた。大政翼賛会の解散後は名実ともに自治組織」と維持を訴える内務省に対し、GHQは厳しい姿勢をとる。

町内会を巡る経過	
1940年9月	内務省訓令で市街地に町内会、その下に隣組を置く「要領」を定める
45年8月	終戦
11月	GHQが日本側に隣組に関する報告を求める
47年5月	GHQの命令を受けた政府が政令で町内会の廃止を命じる
52年4月	サンフランシスコ講和条約が発効、政令は無効に
91年4月	地方自治法改正により町内会が法人格を取得できる仕組みを創設

「隣組組織は自由を抑圧し、民主主義的方法を根こそぎにして統制を実施するための基礎だった。GHQは47年にこうした談話を発表。政府はGHQの命令に基づいて同年、全国の町内会やそれに準じる組織の解散を命じる政令を公布した。しかしGHQの思惑は外れる。政府機関による52年の調査によると、対象とされた全国415地点のうち9割超は町内会のような組織が「今もあつ」と答えた。うち323地点は解散命令から3カ月以内に「防犯組合」などと看板を掛け替え活動を続けていた。

戦後の混乱期、物資の配給や街灯の整備、害虫対策など住民らが対応を迫られた地域の課題は多かった。玉野は「自営業者たちが自力で対処しようとする積極的だった。生きていくうえで必要だったからこそ住民組織は存続した」と語る。

52年4月、サンフランシスコ講和条約の発効によって町内会の解散命令は効力を失う。各地の組織は晴れて町内会の名で活動できるようになり、91年の地方自治法改正では「認可地縁団体」として法人格を取得する仕組みも整備された。

減少する加入率
賑々々引き継がれてきた町内会も敗路に立つ。活動の核となってきた地域の商店街は衰退。インターネットが発達し、自治体は町内会の回覧に頼らなくても情報提供がされるようになった。SNSは地縁とは違う形で人の輪を生み出している。

総務省の調査によると2020年度の加入率は71.7%となり、10年間で6.3%減少。都市部では5割を切る地域もある。役員は負担感も大きい。神奈川県内の町内会では役員を務める50代男性は地元イベントの手伝いで休日もかり出される。「行政の下請けのような業務が多い。後任は見つからない」

有志の市民が16の協議会をつくり親睦活動を続けている。市は財政支援するが口出しはしない。市民活動推進課課長の馬場武寛は「幅広い年代の市民が気軽に参加している」と話す。

解散した武蔵小杉地区の小杉町3丁目町会にも光明はある。地域の祭りなどで代々担ってきた町会(この管理を町内のタワマンが引き継いでくれること)が決まった。「組織が消えたら何もできなくなるわけじゃない。むしろ街のつながりの象徴になっている」。

取材協力 武蔵小杉(町会) 五十嵐俊男